

本計画が目指すまちの姿の実現に向け、「まちのデジタル化」と「行政のデジタル化」を進めています。ここでは、進行中の取組みについて、その一部をご紹介します。

水田センサーを活用した 深水管理水稲栽培

- DX



センサー



- 宮城地区西部において、水田センサー等を使った深水管理水稲栽培の実証を行っています。
- ICTを活用して水の深さを通常より深く保つことで雑草の繁茂を抑制し、農業や肥料を用いずに栽培した水稲は「新川の清流ホテル米」として販売しました。
- 安定した収量の確保を目指し農地の状況に応じて工夫を行い、将来の地域の自立化に向けて取り組んでいます。



保育所業務支援システム

- DX

- 令和5年11月より、全公立保育所32か所において保育所業務支援システムを導入しました。
- 保護者へのおたよりや連絡などの電子化により利便性が向上するとともに、公立保育所内の事務効率化により削減した時間を保育サービスの向上のために充てることが可能となりました。



3D都市モデル オープンデータ化

- DX

- 国土交通省が主導する「Project PLATEAU(プラトー)」の枠組みにおいて、仙台市の3D都市モデルを公開しました。
- 3D都市モデルは多様なデータと組み合わせることで、まちづくり・防災・地域活性化・観光等、多様な分野での都市スケールでのシミュレーションや分析が可能となります。
- アイデアソンの開催や、宮城県主催のワークショップへの参加など、3D都市モデルの活用促進に向けた取組みを行っています。



【仙台市ホームページ】
『3D都市モデルについて』

地域経済のDX推進

- DX

X-TECHイノベーション 創出促進事業

- 防災、健康福祉・医療や農林水産業、子育て等の様々な分野と先端デジタル技術を掛け合わせた「X-TECHイノベーションプロジェクト」の取組みにより、市民の暮らしの向上に取り組んでいます。



【仙台市ホームページ】
『X-TECHイノベーション
創出促進事業』

オンライン就活イベント SENDAI Inspire Talk

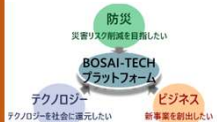
- 全国の学生や若者を対象として、仙台のIT業界や企業の魅力をお伝えするイベントを開催しました。



BOSAI-TECH イノベーション創出促進事業

- DX

- 令和4年2月に「仙台BOSAI-TECHイノベーションプラットフォーム」を設立。「BOSAI-TECH」(防災×IT)をキーワードに「仙台防災枠組2015-2030」の実現を目指します。



- 令和5年12月現在の登録会員企業は198団体に上り、多くの団体が事業開発や実証実験支援のプログラムに参加しています。



【仙台市ホームページ】
『BOSAI-TECH
イノベーション
創出促進事業』

誰にも優しいデジタル化

- DX

各種スマートフォン教室

- 通信事業者と連携して市内各店舗でスマホ教室を開催しているほか、各地域への講師派遣を実施しています。
- また、民間事業者とともに国の制度を活用したデジタル活用支援に取り組んでおり、各市民センター等でもスマホ教室を開催しました。



高齢者デジタル活用 推進事業

- eスポーツは高齢者の健康増進への効果も期待されており、本市では、NTT東日本・東北福祉大学・仙台eスポーツ協会と連携協定を締結しています。
- 令和5年度は、市内2か所の老人福祉センターでeスポーツ教室を開催しました。



仙台MaaS

- DX

仙台MaaS

- 「仙台MaaS(マース)」は移動に使えるチケットと施設の入館券などのチケットがスマホ1台で購入・管理できるWebサービスです。



- 令和5年度は、デジタルマップを導入し、仙台七夕まつり等の各種イベントでの活用や、仙台駅西口バスターミナルの各バス停までの経路情報の掲載等を実施しました。



【仙台市ホームページ】
『仙台MaaS推進』

仙台市×東北大学 スマートフロンティア協議会

- DX

自動運転を見据えたEVバス運行調査

- 青葉山エリアにおいて自動運転のEVバスの実証に向けた調査運行として、国際センター駅と仙台城跡の区間で、EVバス車両を手動で運行しました。



診療カーによる オンライン診療サービス開始

- 将来想定される医師不足や高齢化に対応するため、患者側と医療側の双方にとって、受け入れやすくなるよう看護師が搭乗し医療機器を搭載した診療カーを用いたオンライン診療を開始しました。



各種AIの活用・実証実験

- DX

本市では、AIを活用した市民サービスの向上と業務効率化に取り組んでいます。

AIカメラを活用した 鳥獣被害対策

- 宮城地区西部において、赤外線動態感知カメラの画像をAIを活用して判定し、通知するシステムを導入しました。
- 地域への周知方法の検証や、わなの移設など、鳥獣被害対策の検討に役立っています。



音声合成AIを活用した 地下鉄駅構内放送

- テキストから音声を生成する音声合成AIを活用して各駅に一斉放送できるよう設備改修を行い、緊急時等に、職員が利用者への対応に集中できる環境を整備しました。

AIによる 提案型観光案内実証

- 本市観光情報サイトに日本語・英語に対応したAIチャットボットを設置し、観光客に対して提案型の観光案内サービスを提供する実証実験を行いました。
- 周遊促進による消費拡大、宿泊促進に向けた検討に役立っています。

仙台市コールセンター AIチャットボット

- 会話形式による自動応答で24時間365日お問い合わせが可能なAIチャットボットのサービスを導入しています。
- 知りたい内容を専用画面で入力いただくと、チャットボットが答えられます。



【仙台市ホームページ】
『AIチャットボットのご案内』

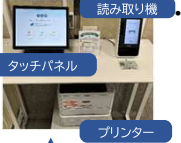
ここでご紹介できなかった取組みについても、国や社会の動向を注視しつつ着実に取り組んでいます。

本計画が目指すまちの姿の実現に向け、「まちのデジタル化」と「行政のデジタル化」を進めています。ここでは、進行中の取組みについて、その一部をご紹介します。

デジタル技術を活用した窓口の利便性向上

- DX

申請書セルフ作成支援システム




令和5年12月より、住民票の写しなどの請求、印鑑の登録・廃止などの手続きの際に、申請書記入の負担を軽減する、「申請書セルフ作成支援システム」を区役所戸籍住民課および総合支所税務住民課に導入しました。

使い方
マイナンバーカードを読み取り機にかざすと、「氏名」「住所」「生年月日」「性別」の情報が申請書の必要事項欄に印字されます。

字幕表示システム

令和6年3月より、職員が話した言葉を来庁者に向けてスクリーンに字幕表示するツールを試行導入しました。会話の聞き取りやすさの解消や、聴力に不安がある方への説明等に活用し、窓口サービス向上を図ります。




マイナンバーカードを活用したサービス向上

- DX

コンビニエンスストアでの証明書自動交付サービス

- 利用者証明用電子証明書が格納されたマイナンバーカードまたはスマートフォン用電子証明書を利用して、コンビニエンスストアのマルチコピー機から仙台市に住民登録をされている方の住民票の写しや税証明などの証明書が取得できます。

【仙台市ホームページ】
『コンビニエンスストアでの証明書自動交付サービスについて』



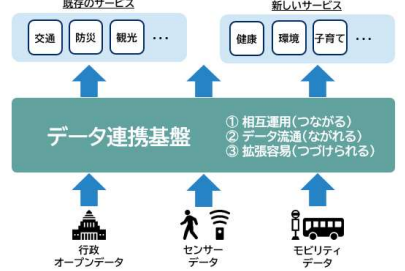
「市民利用施設予約システム」利用者登録のオンライン申請

- 令和6年2月より、マイナンバーカードを活用した本人確認を行うことで、オンラインで「市民利用施設予約システム」利用者登録の申請ができるようになりました。

【仙台市ホームページ】
『市民利用施設予約システムの、個人の方の新規登録・登録内容の変更はオンライン申請でも行うことができます。』

データ連携基盤活用モデル事例創出事業

- DX



既存のサービス：交通、防災、観光...
新しいサービス：健康、環境、子育て...

データ連携基盤
① 相互運用(つながる)
② データ流通(ながれる)
③ 拡張容易(つづけられる)

行政オープンデータ、センサーデータ、モビリティデータ

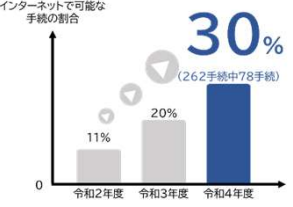
- スマートシティ実現のため、データ活用用の基礎となるデータ連携基盤の有効活用に向けた取組みを行っています。
- 令和5年度には、データ連携基盤を活用し、データを掛け合わせた新しいサービスの創出を目指すプロジェクトを募集し、3件の開発実証プロジェクトを実施しました。

【仙台市ホームページ】
『仙台市データ連携基盤活用モデル事例創出事業』

手続オンライン化の推進

- DX

- 手続オンライン化の統一ルールとなる条例の制定や新たなニーズに対応する機能を搭載した電子申請システムの導入など、環境を整えながら、対象となる手続を拡大してきました。



インターネットで可能な手続の割合
令和2年度: 11%
令和3年度: 20%
令和4年度: 30% (262手続中78手続)



- 令和4年度末時点において、年間1000件以上申請がある手続及び国が示す地方公共団体が優先的にオンライン化を推進すべき手続のうち、インターネットで可能な手続の割合は30%となっています。

DX推進にかかる人材育成

自治体向けDX展示会「TOHOKU DX GATEWAY」




- 令和5年11月、東北全体の自治体DXを促進するとともに、自治体間や民間企業との交流を深めることを目的に、自治体向けDX展示会を開催しました。
- 東北の先進自治体による事例紹介や民間企業によるソリューションの提案等を通じ、同じ課題を持つ自治体職員に学びの機会を提供するとともに、民間企業には横展開によるビジネス拡大の機会の提供につながりました。

開催実績
出展者数: 71ブース 304名
参加者数: 740名(うち自治体職員数348名)

職員向け展示会 デジタル見本市


- 市役所内で既に導入されているデジタル技術や今後導入が期待されるデジタル技術について、職員が直接触れて学び・体験できる機会として「デジタル見本市2023」を開催しました。

展示ブース



BPRプロジェクト研修

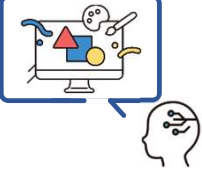
- 各職場におけるDXを効果的に進められるよう、職員が業務内容や業務プロセスを分析・最適化し再構築を図る力を習得するBPRプロジェクト研修を実施しました。



業務活用に向けた生成AI試行

- DX

- 学習データを基に自動で文章等生成する「生成AI」に関して、業務における活用可能性検討のための試行を実施しました。



ChatGPTの社内利用における留意点や活用例をまとめたガイドラインを整備しています。

ガイドラインの概要

- 入力する情報の制限、入力した情報の流出防止のための設定等セキュリティ上のルール
- AIが生成する情報等の特徴や注意点
- 生成AIの業務における活用例